

令和7年 志士の会が、6月15日（日）に開かれた。
参加25名、15年？振りの川島君、北海道からは西園君、
福岡からは関君（奥様と次男と一緒に）、それに大浦君が参加してくれ、
大いに盛り上がった会になった。
大幹事三宅君による開会・乾杯に続いて、あいうえお順の参加者名簿に沿って、
近況報告が行われた。メンバーの元気そうな声と顔が、会を最初から盛り上げた。



三宅



飯田（上野）



大浦



太田



河合（木田）



川島



城野



須河内



関



関君奥様



関君 次男



添田



高本



高山



田中（義一）



棚田



田邊



西園



原



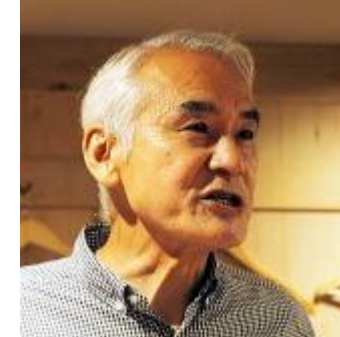
待鳥



森田



森藤



山根



吉原



脇（小林）

今回感じたのは、例年の「自分の健康に関する話」が結構少なく、現在の生活、
やっている事、やりたい事、まだ仕事をしている者も数人、世情、等々、
何時になく「前向きな」印象のコメント、報告が多かった印象だ。
後期高齢者の年を迎えた21回生ではあるが、年寄り臭い話も無く、
何か21回生の新たな出発にも感じられた。

飲み放題だし、席を変わって久しぶりの者との談笑など、会場が部屋であったので、大声も気にせず、大いに親交を深めた。

小グループで「福岡・博多の街の変わり様」の話があり、地元のものでも「いっちょん分からん！」など、古き良き時代を思う話で盛り上がった。多くの関東の21回生も、たまには故郷に帰るものもいるだろうが、10年以上も帰って無い者も居るので、福博の街の変わり様は「実感」し難いところもある。

印象的だったのは、最近奥様と色々な所に「旅に出ているらしい」関君が、挨拶のあと、なんと歌を歌ってくれた。



これが、なんとあの「筑高流れ者！」あの東京流れ者をもじった歌だが、筆者もそうだが多くの者が卒業以来歌ったことが無いと思えるが、関君について一緒に歌うと、なんとか歌えた。多くの21回生も、もう忘れていだろうから、歌詞を下記に記しておく。福岡の寄川君から。

「筑高流れ者」

- 1. 流れ流れて 塩原の筑紫丘に 身を寄せて 学生姿は軟派でも
俺にゃ人情の血が通う *ああ筑高流れ者
- 2. 俺の彼女を 教えよか 色が白くて 背が高く
鼻に金水塗ったら 今じゃ 筑高のNo1
- 3. 惚れた女に 振られても すがりつくよな俺じゃない
俺の彼女は星の数 お前一人が女じゃない

現代では、女性から文句も出そうな歌詞ではあるが、反面当時を思い出す懐かしい曲でもあった。関君の元気さが嬉しかった！

会場の様子と雰囲気を見てもらおう！





飲み放題ラストオーダー！の声にも皆反応して、追加の飲み物をオーダー。
 大声も OK だったので、三宅幹事の提案で「校歌」と「応援歌」も何年かぶりで斉唱！
 そして、代役で何年もやって来た フレーフレー筑高！のエールも
 今回は「本物の応援団長、川島君」が居るので、川島君のリードで
フレーフレー 筑高！と フレーフレー 関君！！を大声で敢行した。

また、この会場は大声も出せるし、東京駅の中という便利な所でもあるので、
 来年もこの場所でやろうと決めた。

そしてお開きとなり、皆で集合写真。



久しぶりの、校歌、応援歌、エールなど、思い出に残る楽しい会であった。
 追記：
 忘れてる人も多いと思うので、校歌と応援歌を下記に記しておく。

福岡県立筑紫丘高等学校 校歌

作詞・高木市之助

作曲・信時 潔

丘上吾等僊
遙々筑紫国原
思出夢遠
民族歴史荷
日本守護

おかのへにわれらしのぶ
はるばるとつくしうにはら
おもいでゆめはとおし
みんぞくのれきしにないて
につぼんをいざまもらん

丘上吾等立
碧空港彼方
盛上大都
東西文化学
日本開拓

おかのへにわれらたてば
あおぞらのみなのかなた
もりあがるおおきみやこ
とうざいのぶんかまなびて
につぼんをいざひらかん

丘上吾等若
高校吾等若
若人此処集
健康叡智正義
日本創造

おかえのへにわれらわかし
こうこうのわれらはわかし
わこうどぞここにつどう
すこやかにさどくたたく
につぼんをいざつくらん

応援歌

一、
聴け玄海の波洗う
その名も古き筑紫野に
久遠の幸をことほぎて
新たに立てる我らこそ
栄ある歴史飾らんとな
胸とどろかす健児かな

二、
栄ある友よ若き日の
進取の意気に奮い立ち
覇業めざしてひたぶるに
鍛えし腕に名をこめて
千里の道にむちあてん
奮え筑高健児かな

来年も皆元気で、また会いましょう！！